

ロータリーの歴史から学ぶ

5. ロータリー財団を正しく理解する

<26 ドル 50 セントから始まった>

ロータリー財団は、国際ロータリークラブ連合会（後の国際ロータリー）の会長アーチ C. クランフ（Archibald (Arch) Cooper Klumph 1869～1951）の夢から始まりました。1917年6月、彼は「寄付による基金をロータリーで作り、世界的規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良いことをしよう」と米国ジョージア州アトランタ国際大会で提案し、採択



されたのです。しかし、彼の熱心さにもかかわらず、寄付はなかなか集まりませんでした。実際、このロータリー基金（ロータリー財団の前身）に最初の寄付があったのは数カ月後で、1917年、米国ミズーリ州カンザスシティーRCからの寄付26ドル50セントというささやかなものだったのです。当初、これはクランフ会長への記念品のための購入資金でしたが、カンザスシティーRCが記念品の代わりに基金へ寄付することを決定したものです。次の寄付は、米国カリフォルニア州サンフランシスコRCから寄せられました。しかし、6年経っても基金はやっと700ドルに達したに過ぎなかったそうです。その後、ようやく5,000ドルにまで成長したロータリー基金は、1928年のミネアポリス国際大会で「ロータリー財団」として認証され、国際ロータリーから独立した別機関となりました。そして、1931年に信託組織となり、1983年に米国イリノイ州の法令の下に非営利財団法人となって、現在に至っています。

<ロータリー財団の父>

「ロータリー財団の父」と讃えられるアーチ C. クランフは、1869年6月6日、ペンシルバニア州コネチカットの貧しい家庭に生まれました。幼少の頃、両親と2人の兄と共にオハイオ州クリーブランドに移住。家計の足しにするため、12歳で学校を辞めて仕事についたそうです。仕事をしながら、彼は夜間学校にも通い、18歳の時、キューヤホガ木材会社の雑用係の職につきました。その後、どんどん昇進して、最終的にはその会社の総支配人、そして経営者になったのです。

彼は、製箱会社や汽船会社、銀行の社長、不動産業などでも、経営手腕を発揮しています。また、優れたフルート奏者として、クリーブランド交響楽団で14年間に亘って活躍したことでも知られています。

1911年、クランフは「木材卸売ならびに小売」の職業分類でクリーブランドRCの創立会員となり、翌1912年に同クラブの会長をしています。熱心なロータリアンだったらしく、友人達は彼のことを「寝てもさめてもロータリーだ」と評していたと伝えられています。彼は、クラブ会長としての最後のスピーチで、今後、クラブが多くのことができるように「非常時基金」を作ること提案しました。この提案が、彼が1916～17年度の国際ロータリークラブ連合会の会長を務めた時の提案に繋がったとされています。



また、彼は1914年に国際ロータリークラブ連合会の理事になり、1915年に採択された標準ロータリークラブ定款・細則の制定に携わった責任者であったことでも有名です。さらに、ロータリーに地区を設け、地区ガバナー職をつくり、年次地区大会を確立したのも、彼の業績なのです。驚くべきことに、これらの彼の活躍は、第一次世界大戦（1914～1918年）の最中の出来事でした。

1928年のミネアポリス国際大会で「ロータリー基金」が「ロータリー財団」と改称された折、当時、管理委員であったアーチ C. クランフは次のように述べています。「我々は、この財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきです。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからです」一。実際、彼が1928年9月号のロータリアン誌の記事で主張した「これからの財団プログラム：学生の交換、グループの交換、国際事業関係を通じての友好」は、その後、財団事業として実施された奨学金、研究グループ交換、マッチング・グラントなどの形で実現しているのです。まさに、彼は「ロータリー財団の父」と呼ばれるに相応しい人なのです。

<最初の補助金>

1929年、ロータリー財団は、初の補助金500ドルを「身体障害児童保護国際協会」へ贈りました。これについては、少し裏話があるのです。実は、ロータリーの創始者ポール P. ハリスが匿名で500ドルを財団に寄付し、その500ドルを「身体障害児童保護国際協会」へ寄贈することを要望したという話が残っているのです。



この協会は、ロータリアンだったエドガー F. アレン (Edgar Fiske Allen 1862-1937) (通称；ダディー・アレン (Daddy Allen)) が創設したもので、後に「全米イースター・シール協会」(米国の慈善団体)へ発展したことで知られています。このダディー・アレンの独創的な身体障害児童援助活動は、既に1919年に始まっていました。障害者のリハビリテーションを援助しようという彼の考えは、当時、多くのロータリアンの心を捉えていて、一時は「ロータリーの目的(綱領)」の一つに提案されたほどだったのです。

この最初の財団補助金は、その後のロータリー財団の方向性を大きく決定づけたと言ってもよいでしょう。それは、「障害のある人のために、困窮している人のために、そして青少年のために」という方向性です。例えば、3-H(保健、飢餓追放、人間性尊重)補助金プログラムは、まさにこの方向性によるものです。ポリオ・プラスにしても、「リハビリテーション」を超えて、「一生の障害または死に至る小児病の予防」にまで発展させたプログラムです。



<財団の概要>

ロータリー財団の正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団 (The Rotary Foundation of Rotary International: TRF)」で、構成する法人会員は国際ロータリーだけです。また、財団の法人設立定款と細則によって「慈善的、教育的目的のためのみ運営するもの」と定められており、元RI会長を含むロータリー財団管理委員と事務総長によって運営されています。



財団管理委員会は、2007年6月、ロータリー財団の使命を「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」と定め、2011年9月に「ロータリー財団は、寄付を受け、ロータリークラブや地区を通じて実施される人道的・教育関係の活動に資金を分配する非営利財団である」と定義しました。なお、ロータリー財団の標語は、皆さんもよく御存知の「世界で良いことをしよう (Doing good in the world)」です。

<財団の成長>

第二次大戦後の1946年1月、R I 理事会は次のような声明を出しています。

国際関係改善の必要性が世界中で急速に高まってきた昨今、ロータリーの目的（綱領）第4項の『国際奉仕』を推進しようとしても、どこのロータリークラブも分かりやすく、实际的、かつ効果的な活動ができないままです。しかし、ロータリーは、世界的影響力のある組織として、世界の人々の相互理解を推進する責務を果たさなくてはなりません。そのためには・・・一つのロータリークラブだけでなく、複数のロータリークラブの、そして国際ロータリーまでも巻き込むほどの協力がなくては上手くいきません。だからこそ、今まさに単独の、またはロータリークラブ同士の、さらには国際ロータリーの活動をも補足し、かつ、それらを調整、援助するための組織が必要なのです。そして、ロータリー財団という組織こそが、それらを実施すべきであり、かつ実施することができるのです。

しかし、そうした掛け声とは裏腹に、第二次大戦の生々しい爪痕が世界中に残っている中、ロータリー財団は資金的にも活動的にも苦しい状況が続きました。ところが、1947年1月27日、ロータリー創設者のポール P. ハリスが亡くなると、事態が一変したのです。70カ国以上30万人以上のロータリアンが、彼の死を悼みました。その後、数多くのロータリアンが、彼の偉業を讃えて多額の寄付を国際ロータリーへ寄せるようになり、財団は「ポール・ハリス記念基金」を設けたのです。そして、翌年の7月までに130万ドル以上の寄付が集まり、その後の財団発展のために役立てられました。以来、ロータリー財団は、資金的にも活動的にも発展を遂げるようになったのです。

<財団プログラムの変遷>

●1947年

財団初のプログラム「Fellowships for Advance Study（高等教育のためのフェローシップ）」を開始。このプログラムは、後に「国際親善奨学金」として知られるようになる。

●1965～66年

新たに「研究グループ交換（GSE）」、「Awards for Technical Training（技術研修のための補助金）」、「Grants for Activities in Keeping with the Objective of The Rotary Foundation（ロータリー財団の目的を果たす活動のための補助金（後のマッチング・グラント）」の3つのプログラムを開始。

●1978年

「保健、飢餓追放、人間性尊重（3-H）補助金プログラム」を開始。3-H補助金のプロジェクトの第一号として、フィリピンの600万人の子供達にポリオの予防接種を実施。

●1985年

全世界でポリオの撲滅を目指す「ポリオプラス・プログラム」を設置。

●1987～88年

初の平和フォーラムが開催され、これが「ロータリー平和フェローシップ」創設のきっかけとなる。

●2013年

「未来の夢計画」として、世界中のロータリアンがグローバルなニーズに応えられるよう、新しい補助金モデル（地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラント）を導入。

<未来の夢計画>

1917年に26ドル50セントの寄付から始まったロータリー基金は、ようやく5,000ドルに達した1928年にロータリー財団となり、今や10億ドル以上の寄付を受けるほどの大きな組織に成長しました。そして、これまで人道的分野、教育的分野の支援活動を続けながら、目覚ましい発展を遂げてきたのです。その一方で、財団事務所は事業の申請や決済のための膨大な書類の山に囲まれるようになり、今後の事業継続に少なからず支障をきたすようになりました。そこで、2017年に財団創立100周年を迎えるにあたり、ロータリー財団の将来像について検討した上で、時代のニーズに合ったものに財団を変えていこうとしたのが「未来の夢計画」です。

これまでのロータリー財団は、プログラムの数が多く、使い勝手が悪い、手続きが面倒だ、複雑で分かりにくい等の批判的な意見が数多くありました。そこで、世界中のロータリアンにアンケート調査を実施し、その結果から「もっと地区に色々な権限を移行するとともに、ロータリアンが財団をより身近に感じられるようにしよう」との結論に至り、2005年の国際ロータリーの100周年を機に、この「未来の夢計画」の準備が開始されたのです。その準備のための原案は、2009-10年度までに作成され、ロータリー財団管理委員会と国際ロータリー理事会で承認されました。そして、2010-11年度より、世界から選ばれた100（日本からは6つ）のパイロット地区（試験地区）において、計画されたパイロット事業が3年間のパイロット期間で実施されたのです。2013-14年度からは、これらのパイロット地区から出された改善案をもとに、「未来の夢計画」がスタートしています。



以上のような背景を踏まえた上で、「未来の夢計画」というのは、「人道的・教育プロジェクトの規模をこれまでよりも広げ、ロータリアン自らも活動しやすい多種多様な奉仕プロジェクトを実施することで、社会に多大な影響と持続可能な成果をもたらし、かつロータリーの公共イメージの高揚にも貢献する、より効果的で効率的、簡素化した支援方法を目指した新しい補助金モデル」と理解すればよいでしょう。

この新補助金は、「新地区補助金」と「グローバル補助金」の2種類からなり、補助金を必要とするプログラムの計画・申請・承認を当該前年度に行わなければなりません。それらの詳細については、他の資料を参考にしていただけると存じます。

いずれにしても、「未来の夢計画」によって、「ロータリアン自らが創造し、かつ自らも参加・活動しやすい奉仕プロジェクトを行うために、ロータリー財団の補助金が活用しやすくなった」と、前向きに考えればよいのではないのでしょうか。

<ロータリー財団は好きでない？>

ベテランのロータリアンから、「最近のロータリーは、寄付集めの団体に随ってきた」という言葉をしばしば耳にします。私自身、「ロータリーは、寄付集めの団体でもなければ奉仕団体でもない。奉仕の心を育て、自ら奉仕を実践する立派な職業人を育てる団体だ」という思いを強く持っています。それだけに、決議 23-34 に明記された「クラブ自治権」や「社会奉仕事業の在り方」を考えた時、ロータリー財団があまりにも強大な組織となり、地区やクラブを通して財団への寄付を推奨され、かつ財団による奉仕プログラムを奨励されることを、少なからず苦々しく思っていたことも確かです。

しかし、建前上、財団への寄付は強制や強要ではないし、それがロータリーの会員資格の条件になっているわけでもありません。ロータリー財団の標語「世界で良いことをしよう (Doing good in the world)」は、財団創設者であるアーチ C. クランプの言葉「寄付による基金をロータリーで作り、世界的規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良いことをしよう」が起源です。実際、ロータリー財団の使命は、「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」と定められています。また、自らの組織を「ロータリー財団は、寄付を受け、ロータリークラブや地区を通じて実施される人道的・教育関係の活動に資金を分配する非営利財団である」と定義しています。つまり、良いことをしている団体なのです。

私は、ロータリー創設者であるポール P. ハリスの「動機は純粋か？」という言葉思い出します。彼は、ロータリーで新たな問題が提起され、その解決策が検討された時、その妥当性については勿論でしょうが、何よりも「その問題提起と解決策の提案に、不純な意図はないか？ 動機は純粋か？」を重く考えて、その賛否を決めたそうです。

1929年、ロータリー財団の初の補助金 500 ドルが「身体障害児童保護国際協会」へ贈られることになった契機は、ポール P. ハリスの匿名による 500 ドルの財団寄付でした。つまり、彼が最初に財団事業の後押しをして、以来、「障害のある人のために、困窮している人のために、そして青少年のために」という方向で、財団の事業が行われてきたのです。

ロータリー財団は好きではないと言う人の気持ちは、私も分かります。それでも、ここ数年、ロータリー財団の歴史を学んできた私としては、今後はもっと財団への協力をしていこうと決心したところです。

(2016年7月3日 初稿 文責：鈴木一作)